

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																									
日本動物専門学校		平成17年10月5日		吉沢 和也		〒166-8567 東京都杉並区高円寺南4-6-8 (電話) 03-5306-3211																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																									
学校法人立志舎		平成10年10月30日		塚原 一功		〒130-8565 東京都墨田区錦糸1-2-1 (電話) 03-3624-5403																									
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
文化・教養	動物管理専門課程	動物管理学科		平成19年文部科学省 告示第20号	-																										
学科の目的	<p>教育基本法及び学校教育法に基づき、動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識及び人間と動物が共生できる確かな技術を授け、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献する有能な人材を育成することを目的とする。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> トリマーとして必要な美容の知識、動物の健康に関する知識、獣医学、各犬種に応じたトリミングの知識と技術を学ぶことを目的とする。 盲導犬、警察犬の訓練を意識した実習を行い、家庭犬のしつけなどを行う中で、基本的なしつけだけでなく、競技会での歩き方、アジリティなどの競技種目の訓練も行うことを目的とする。 チーム医療を実現するために、動物医療機器により豊富な実習を行うことで、必要な知識、技術、命の大切さを学ぶとともに、獣医師と飼い主の間に立ち、両者をつなぎ合わせる役を担う人材を育成することを目的とする。 近年多様化するペット業界で働くための基礎知識だけでなく、グルーミングやトレーニング実習、ペットグッズ製作など幅広く学ぶことを目的とする。 ペットの持つセラピー効果やペットを癒すためのマッサージなどペットケアについての知識を学びながら、ペットが人と永く共生できるように、身体全体のケアやドッグマッサージ、アロマセラピーなどについて学ぶことを目的とする。 <p>これらの目的は「ゼミ学習」により達成することができ、動物およびビジネスに関する資格を取得し、実習を行うことで、幅広い知識や技能を身に付け、動物業界のみならず異業種企業にも就職することを最終的な目的とする。</p>																														
認定年月日	平成26年3月 31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	1,720時間	960時間	1,080時間	1,845時間	— 時間	— 時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
280人	235人	0人	7人	7人	14人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は秀・優・良・可・不可の5つに分け不可を不合格とする成績評価は期末試験、授業期間中に実施するテスト、出席などを総合して判断する。																										
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月16日～8月31日 ■冬季: 12月16日～1月6日 ■春季: 3月16日～4月1日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が規定の授業時間数に達すること。なお、教育課程に定められた必修科目についてははすべて取得することを要します。																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話での対応、保護者との面談、保護者との綿密な連絡体制を図る。			課外活動	■課外活動の種類 海外ペット研修、球技大会、総合体育祭、スノーボード&スキーツアー、硬式野球選手権大会、合格祝賀会、学内就職セミナー、就職出陣式 等 ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) AHB、コジマ(ペットの専門店コジマ)、プリモ動物病院グループ、日本小動物医療センター、栃木県警察犬家庭犬訓練所等 ■就職指導内容 ・業界研究 ・業種研究 ・自己分析 ・面接指導(オンラインも含む) ・新入生就職セミナー ・学内就職セミナー ・就職出陣式 ・進路決定のための就職、公務員ガイダンス ・企業内インターンシップ・官公庁説明会など ■卒業生数 : 117 人 ■就職希望者数 : 110 人 ■就職者数 : 108 人 ■就職率 : 98.18 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92.3 % ■その他 ・アルバイト: 7人 ・家事承継: 2人 (令和3年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定(ジョブパス)3級</td> <td>③</td> <td>128人</td> <td>97人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>122人</td> <td>106人</td> </tr> <tr> <td>家庭動物管理士3級</td> <td>③</td> <td>126人</td> <td>125人</td> </tr> <tr> <td>全日本ハンドリング検定3級</td> <td>③</td> <td>128人</td> <td>127人</td> </tr> <tr> <td>ペットフード/ペットマナー検定</td> <td>③</td> <td>84人</td> <td>81人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定(ジョブパス)3級	③	128人	97人	愛玩動物飼養管理士2級	③	122人	106人	家庭動物管理士3級	③	126人	125人	全日本ハンドリング検定3級	③	128人	127人	ペットフード/ペットマナー検定	③	84人	81人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
ビジネス能力検定(ジョブパス)3級	③	128人	97人																												
愛玩動物飼養管理士2級	③	122人	106人																												
家庭動物管理士3級	③	126人	125人																												
全日本ハンドリング検定3級	③	128人	127人																												
ペットフード/ペットマナー検定	③	84人	81人																												

中途退学の現状	<p>■中途退学者 15名 ■中退率 5.79%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者259名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者244名（令和4年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的問題、体調不良のため療養、進路変更（就職）</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 学生相談室の設置、学生との面談、保護者との電話連絡、保護者宛の郵送による出席状況報告など</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p><学校独自の奨学金> ・特別奨学生試験制度 <学校独自の特待生制度> ・資格や経歴による特待生制度 ・スポーツ特待生制度 <授業料等減免制度> ・東日本大震災・熊本地震による学費減免制度 <その他の学費支援制度> ・学費延納制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p>
当該学科のホームページURL	<p>URL:https://www.nihondoubutsu.ac.jp/</p>

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

(3)上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。))との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
動物系企業・一般企業・動物業界団体等との連携により、動物に関する専門知識、職務等の遂行に必要な最新の知識・技術・技能を修得し、人間と動物が共生できる確かな技術を授けるため、動物系企業・一般企業・動物業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムおよび授業運営に関する改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
1. 教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野について各校ごとに設置する。教育課程編成委員会は、業界関係者、有識者および学園職員で構成する。
2. カリキュラム作成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。カリキュラム作成委員会は関連する学校、関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
3. カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
4. カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会全体会および各学校・各学科ごとの分科会において検討を行う。
5. 教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
6. カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
7. カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の意見を十分に生かし、カリキュラム改善等の教育課程の作成を定期的に行う。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
前田 勇太郎 氏	特定非営利活動法人 犬の総合教育社会推進機構 事務局長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	①
花城 紀乃 氏	ガク動物病院 動物看護師長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	③
吉沢 和也	日本動物専門学校 校長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	
早川 慎二	日本動物専門学校 動物管理学科 教務部課長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	

令和4年2月1日現在

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回(9月、1月)
(開催日時(実績))
第16回 令和3年2月 2日 10:00～11:20(うち学園全体会10分 日本動物専門学校 分科会55分)
第17回 令和3年9月28日 10:00～11:20(うち学園全体会10分 日本動物専門学校 分科会55分)
第18回 令和4年2月 1日 10:00～11:20(うち学園全体会10分 日本動物専門学校 分科会55分)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
1. 意見:トレーニングについては実技が大切で、校外学習も含めて杉並と錦糸町の学生で場所を変えてやる等を行うとドッグトレーニングのモチベーション向上につながる。
活用状況:立志舎オビディエンス・アジリティの競技会を令和3年12月21日開催。競技会へ向けた代表選考では、2・1年ドッグトレーナーコースを全学生を対象に実施し、ドッグトレーニングのモチベーションの向上につなげた。
2. 意見:飼い主様の目の前で犬のお手入れができる授業は非常に良い。例えば、お預かりしている犬の飼い主に授業見学をしてもらうことで、学生も緊張感が持てて良いと思う。
活用状況:グルーミングコースの1年生に対し、令和4年1月8～10日の横浜ペット博において、無料トリミングブースを設置し、家庭犬の受入れと、爪切り・耳掃除のお手入れを、飼い主様の目で行った。
3. 意見:レーキング実習やスタンド・ドライヤー実習などがあると良い。特にサロンでは時間短縮のため、スタンド・ドライヤーの使用が中心で、うまく使用するために慣れるまで時間がかかった。
活用状況:グルーミングコース2年生に対し、スタンド・ドライヤーの使用法の講義を行った上、10月より実習毎に4名がスタンド・ドライヤーを使用してグルーミング実習を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学外の企業や組織と連携した活動を行うことで、実務者の指導の下、動物業界人としての意識を持たせる。また、業界の動向、最新の技術、知識を修得させるために、職業教育を通じ、自立した職業人を育成し社会や職業へ円滑に移行させること。具体的には以下の通りである。
1. 企業や組織と連携したインターンシップ・プログラムの実施。
1年次の1月中旬に1週間のインターンシップ・プログラムを実行する。実習期間中は学内で行ってきた日々の実習内容を振り返り、実践に役立つことができているか否かを自らが「インターンシップレポート」を用いて確認する。これに対して実務者が講評を行い、教員が評価する。この間、教員がインターンシップ先を訪問し、実習態度等を確認。インターンシップの場では、学内で学んだことを試しながら、技術を体得していく。
2. 動物系企業で活躍する実務者を招いての講演会。
各種実習を行うにあたり、実務者の技を目の前で実演していただくことで、実践により近い状態での実習ができるようにする。また、動物系企業が求める人材がわかり、自分の適性を見つめる機会にもなる。
3. 動物業界全体で抱えている問題をテーマとし、その問題を解決できる企業を招いて考察する。
動物業界が抱えている問題や課題を企業が提示し、その内容について企業と共に学生が考察する。ここで得た知識は、人間と動物が共生できる確かな技術として、業界全体に広めていく。
4. 学内では行うことが困難な実習を連携先で活動すること。
学内で飼育することが困難な動物の飼養については、連携する団体の実務者の指導の下で、学生が飼養活動を行う。学生は活動期間中、「実習レポート」を記入し、これに対して実務者が講評を行い、教員が評価する。この間、教員が連携先を訪問し、実習態度等を確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 ・生涯職業計画の指針として、職場体験を行う。インターンシップ先は、原則として学生の希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択できる。学修成果にあたっては、各インターンシップ先企業と連携し、インターンシップ後に作成されるレポート及び各企業からの評価表によって成績を評価する。
 ・動物看護師としての意識を持ち実習することで、診療現場での臨床経験を学び、実践的な看護と専門知識及び倫理観を習得する。学修成果にあたっては、各動物病院と連携し、実習後に作成されるレポート及び各動物病院からの評価表によって成績を評価する。
 ・グルーミング実習を行うにあたり使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について学修する。学修成果にあたっては、有限会社ベッツピー・ディーと連携し、講義後に作成されるレポートによって成績を評価する。
 ・動物の生命と健康に障害を及ぼす各種要因について学習し、動物の健康維持に必要な衛生についての知識を学修する。学修成果にあたっては、ライオン商事株式会社と連携し、講義後に実施されるテストによって成績を評価する。
 ・犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が犬との生活で欠かせないものであることを理解し学修する。学修成果にあたっては、有限会社前田愛犬訓練所と連携し、学生がレポートに講義内容をまとめ記入し、それを基に成績を評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	生涯職業計画の指針として、職場体験を行う。インターンシップ先は、原則として学生の希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択できる。	コジマ、ユアペティア、ワンラブ、Coo & RIKU、ドッグケアハウス、ペットフォレスト、ZOOJAPAN、ドッグスクールユナイテッド、ドッグライフプランナーズ等
動物看護総合実習Ⅰ	動物病院で体験・実習することで、診療現場での臨床経験からより実践的な看護と専門知識及び倫理観を習得する。修学した知識と技術を実際の動物医療現場で生かすことを目的とする。	苅谷動物病院グループ、プリモ動物病院グループ、コジマ動物病院、新座動物総合医療センター、クロス動物医療センター、久米川みどり動物病院 等
グルーミング論Ⅰ	グルーミング実習を実施するにあたり、使用する用具の基礎知識・使用方法や健康管理・保定方法を学び、さらにベーシックの基礎知識の修得を目標とする。	有限会社ベッツピー・ディー
基礎獣医学Ⅲ	感染症の中でも人に感染するズーノーシスについて学習する。感染経路や症状を理解し、予防できるよう学ぶ。また、主となる家庭動物である犬や猫の繁殖生理や解剖生理、分娩について学ぶ。さらに幼齢動物・高齢動物の飼育管理を理解する。	ライオン商事株式会社
犬の行動心理学Ⅰ	犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。 また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身につける。	有限会社前田愛犬訓練所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 「学校法人立志舎 教員研修規程」において、以下の様に定めている。
 1 研修は、教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術および技能並びに、指導力の修得・向上を目的として行う。
 2 研修は教員に対して行い、個々の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務等に応じて実施しなければならない。
 3 学園は、教員の研修計画を策定・実施し、教員に研修を受講する機会を与えなければならない。
 4 学園が必要と認める場合は、他の企業等の関係機関と連携し研修を行うことができる。
 5 教員は、学園が定めた教員研修計画に従い、研修目的を達成するため研修を受講しなければならない。
 動物を取り巻く業界内の環境は日々進化しており、動物に関する専門知識・技術を教育する本学の教員も社会で活用されている実践的な技術と知識を修得する必要がある。そして修得した技術と知識を、常に今後の動物産業界を担う者たちへの育成教育に活かすことを目的として、教員研修規程に従い職能団体と連携して定期的に研修を行う。なお、授業及び学生に対する指導力等の修得向上のための研修等も定期的に行っていく。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等
 研修名:犬の心肺エコースキルアップ実習(連携企業等:宇際企画株式会社)
 期間:令和4年3月20日(日)
 対象:動物管理学科に所属する教員
 内容:獣医療を担う動物看護養成学校として、最新機材の操作方法と各臓器の抽出方法を教員自らが把握し、今後の動物産業界を支える学生たちに伝えていくことは重要であると考え、本講習会に参加した。
 ②指導力の修得・向上のための研修等
 研修名:「職場のハラスメントの基礎を学ぶ～正しい理解が防止の第一歩～」(連携企業等:公益財団法人東京都人権啓発センター)
 期間:令和4年2月25日(金)
 対象:動物管理学科に所属する教員
 内容:研究・教育の場のハラスメントは、教育環境を悪化させ、学生の能力の発揮や向上を妨げる。また、個人としての自由・尊厳・平等などの基本的な人権や学ぶ権利である学習権を侵害する。正しい知識を共有し、個々に適切な対応策を身に付けてクラス運営、学生指導、学生支援の充実に役立てることを目的として実施した。事例を踏まえた分かりやすい解説により非常に役に立つ内容であった。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等
 研修名:「WJV ONLINE 第13回大会」(連携企業等:一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム)
 期間:令和4年7月8日(金)～8月14日(日)開催 ※オンライン配信(Web)
 対象:動物管理学科に所属する教員
 内容:明日から役立つ動物看護師向け講義(知っておくべき病気シリーズ:下痢 糞便検査と院内感染症対策、無麻酔歯石除去やってみる?、知っておくべき病気シリーズ:不妊手術後の尿失禁 他)
 ②指導力の修得・向上のための研修等
 研修名:「ハラスメント防止のために(仮題)」(連携企業等:公益財団法人 東京都人権啓発センター)
 期間:令和4年12月参加予定
 対象:動物管理学科に所属する教員
 内容:セクハラ・パワハラ等、身近な人権問題に関する講演およびグループ討論

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるか検証するため学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は原則として年1回開催する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	イ.理念、目的、育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ロ.学校における職業教育の特色は何か ハ.理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか ニ.各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	イ.目的等に沿った運営方針が策定されているか ロ.運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ハ.人事、給与に関する制度は整備されているか ニ.教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ホ.教育活動に関する情報公開が適切になされているか ヘ.情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	イ.教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ロ.教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ハ.学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ニ.キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ホ.関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ヘ.授業評価の実施・評価体制はあるか ト.成績評価・単位認定の基準は明確になっているか チ.資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか リ.人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 又.職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	イ.就職率の向上が図られているか ロ.資格取得率の向上が図られているか ハ.退学率の低減が図られているか
(5)学生支援	イ.進路・就職に関する支援体制は整備されているか ロ.学生相談に関する体制は整備されているか ハ.学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ニ.学生の健康管理を担う組織体制はあるか ホ.課外活動に対する支援体制は整備されているか ヘ.学生の生活環境への支援は行われているか ト.保護者と適切に連携しているか チ.高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	イ.施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ロ.学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ハ.防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	イ.学生募集活動は、適正に行われているか ロ.学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ハ.学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	イ.中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ロ.予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ハ.財務について会計監査が適正に行われているか ニ.財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	イ.法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ロ.個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ハ.自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ニ.自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	イ.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ロ.学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ハ.地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価していない。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・自己評価委員会でまとめた評価につき、学校関係者評価委員会の委員から受けた指摘や提言について改善に取り組んでいる。主たる内容を以下に記す。

- ① 学校関係者評価委員会の委員より、「最近のインターンシップ実習生は、挨拶に元気がなくなってきている。しかし、貴学では家庭犬の受入れを通して近隣住民とのコミュニケーションを積極的に行い、接客・接客能力を育成していく姿勢がとても素晴らしい。」といった賛辞に見合うような学生の育成に注力する。
- ② 「高い就職率と資格の高い合格率は継続しつつ、貴学自慢の学校イベントも少しずつ再開して行ってほしい。」といった学校関係者評価委員会の委員からの提言を受け、球技大会、総合体育祭を小規模ながら再開していく。
- ③ 学校関係者評価委員会の委員からの提言を受け、在学生向けの講演会として、本学の卒業生である株式会社AHBの社員による講演会や座談会の開催を令和4年度中に検討し、開催する。
- ④ (1)教育理念・目標「ハ、理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか」の評価が毎年変わらないことについて、「保護者向けの通知に学園の基本目標、育成人材像を記載した通知を同封してみたら良いと思う。」といった提言があったので、令和4年度中の保護者向け発送に同封することで、この項目に対する改善を行う。
- ⑤ (4)学修成果「ハ、退学率の低減が図られているか」について、「精神的な理由」による退学者を減らすための提言として、「スクールカウンセラーの導入、東京都が開催している研修会などへの参加。」が学校関係者評価委員会の委員より提言された。この提言を受け、「東京都が開催している研修会などへの参加」について、令和4年度中に参加することにする。
- ⑥ (6)教育環境「ハ、防災に対する体制は整備されているか」について、災害時対応マニュアルを更に整備する必要がある、さらに不審者対応についても考えていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月17日現在

名前	所属	任期	種別
牛込 清孝 氏	立志舎高等学校 事務長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	高校関係
川口 雅章 氏	一般社団法人全国ペット協会 常務理事	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	業界関係
北村 啓 氏	株式会社荏谷動物病院グループ 管理部人事労務課長兼総務課課長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	業界関係
近藤 大 氏	株式会社 Dog Nit's 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.nihondoubutsu.ac.jp/>

公表時期: 毎年5月下旬

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育方針、特色(ホームページ、入学案内書) 校長名、所在地、連絡先(ホームページ) 学校の沿革、歴史(ホームページ、入学案内書)
(2) 各学科等の教育	設置学科、収容定員(ホームページ) 授業方法(ホームページ、入学案内書) カリキュラム(ホームページ、入学案内書) 目標取得資格、目標合格検定(ホームページ、入学案内書) 資格取得、検定試験合格等の実績(ホームページ、入学案内書) 主な就職先(ホームページ、就職速報)
(3) 教職員	教職員数(ホームページ)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等の取り組み支援(ホームページ、入学案内書)
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況(ホームページ、入学案内書) 課外活動(ホームページ、入学案内書)
(6) 学生の生活支援	学生相談室・就職相談室の設置(ホームページ)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い(ホームページ、募集要項) 活用できる経済的支援措置の内容(ホームページ、募集要項)
(8) 学校の財務	事業の概要、財産目録、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表(ホームページ)
(9) 学校評価	自己点検評価報告書(ホームページ) 学校関係者評価報告書(ホームページ)
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL:<https://www.nihondoubutsu.ac.jp/>

授業科目等の概要

動物管理専門課程 (文化・教養分野) 動物管理学科 2022年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーについて学ぶ。学生としての意識・行動を顧み、社会人としての自覚や責任感を持つ。基本的なビジネスマナーを理解し組織の一員として働く留意点を学び、仕事を行う上で必要な職場における気配り・心配り・気遣いのできる社会人を目指す。	1前	60	2	○			○		○	○	○	
○			就職ゼミナール	社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方や行動の仕方について理解を深め、礼儀・ビジネスマナーの修得を目標とする。講座では、面接選考の仕組みを理解し、グループディスカッション、集団面接、個別面接、最終面接の面接ポイントを理解する。また自分の過去を体系的に整理し、自己分析を行いエントリーシートの作成や履歴書の作成に備える。本講座は、本学教員による演習と併せて、人事採用状況について精通している外部教員(各業界を代表する企業の人事担当者)の講話により構成される。	2前	60	2		○			○				
○			総合講座Ⅰ	社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける。非言語分野を中心に繰り返し演習を行い「解法」を身に付ける。	1前	30	1	○				○				
○			総合講座Ⅱ	社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける基礎講座の後、応用問題に取り組みより正確かつ迅速に演習ができるようにする。	1後	30	1	○				○				
○			コンピュータ演習Ⅰ	パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Wordを中心として、Excel、PowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。	1後	60	2		○				○			
○			コンピュータ演習Ⅱ	パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Excelを中心としてPowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。	2後	60	2		○				○			
○			卒業研究	就職先の業界研究など各自の定めたテーマに沿って卒業研究の成果として提出する論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、テーマに精通する者として、そして一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。	2後	150	5		○				○			
○			グルーミング実習Ⅲ	小型犬・大型犬などの多種多様な犬種の特徴に合わせたグルーミングやトリミングが実践できるような技術を修得し、トリマーとしての応用力を育成することを目指す。	2前	90	2			○						○
○			グルーミング実習Ⅳ	小型犬から中・大型犬について多種多様な犬種の特徴に合わせたトリミング技術を高めるとともに、飼い主からのオーダーに合わせたグルーミングができる技術を修得し、トリマーとしての実践力の育成を目標とする。	2後	45	1			○						○
○			グルーミング実習Ⅰ	グルーミングの目的を理解した上で正しい道具の扱い方を実践することで、用具・用品の適切な使用方法や手入れの方法、生体の健康チェックやグルーミングの基礎となるベーシックを中心に行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング基礎技術を修得することを目標とする。	1前	90	3			○						○
○			グルーミング実習Ⅱ	グルーミングの基礎知識を実習に生かし、基本的な技術を身に付け迅速かつ丁寧に作業を行い、ペーシングを完了できるような実習を行う。また、犬体モデルを使用し、ケネルカットについてカット方法を身に付ける。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	1後	90	3			○						○
○			グルーミング実習Ⅲ	ブードルのカットとして、ケネル(ラム)カットを主に、一人でベーシックからクリッピング、カットまで行えるように実習を行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、トリミング技術の目安となるケネルカットを実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、より高いグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2前	90	3			○						○
○			グルーミング実習Ⅳ	ケネルカット以外のカット方法を学び、実践することで、一定の犬種にこだわらずにグルーミング対応できる人材を目指す。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、人気犬種のグルーミング技法を実体験に沿って行う内容とし、高度なグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2後	30	1			○						○
○			グルーミング論Ⅰ	グルーミング実習を行う際に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義、演習を行う。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい道具の扱いや生体の扱いを実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	1前	30	1			○						○
○			グルーミング論Ⅱ	グルーミング時に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の知識を用いて、カットの基本技術を学ぶためトイプードルのケネル(ラム)クリップ技法を学ぶ。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	1後	30	1			○						○
○			グルーミング論Ⅲ	グルーミングの目的と必要性を認識し、小型犬や大型犬を問わず多種多様な犬種の特徴を学ぶとともに、トリミング技術の知見を広げる。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	2前	30	1			○						○
○			犬の行動心理学Ⅰ	犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身に付ける。	1前	30	1			○				○		○

○	犬の行動心理学Ⅱ	犬の行動特性を学ぶうえで、様々な犬種を扱いながら犬の行動や状態、性格分析を行う。また、各犬に応じた接し方を学ぶことで、人間と犬との関係性（コミュニケーション）の築き方を学ぶ。	1 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	犬の行動心理学Ⅲ	応用編として動物行動学や学習理論に基づき各犬の行動・性格分析を行い、適切な接し方を実践したうえで、効果的にトレーニング（犬の行動を引き出す技術）が行われているかを学ぶ。	2 前	30	1	○	○	○	○	○	○
○	犬の行動心理学Ⅳ	多くの犬種の特性と様々な問題行動を理解し、その対処法からトレーニング方法を考え実施する。また、仔犬を含めた犬に対するケアと管理の方法を理解し、第三者にもアドバイスできる人材となれるよう技術を高める。また、ドッグスポーツとしてアジリティ競技を学ぶ。	2 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	インターンシップ	生涯職業計画の指針として、職業選択、適性の見極めを目的として職場体験を行う。インターンシップ先は、原則として学生自身が希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択できる。	1 後	45	1	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング研究Ⅲ	犬種に合わせてトリミング技術を高め、さらにグルーミングにおける多種多様なサービスに対応した知識・技術の修得し、トリマーとしての知識・技術の幅を広げることが目標とする。	2 前	90	2	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング研究Ⅳ	犬種や飼い主からのオーダーに応じたグルーミングができる技術に高めるとともに、グルーミングにおける多種多様なサービスに対応した知識・技術を修得し、即戦力となりうるトリマーの育成を目標とする。さらに、全日本グルーミング検定2級の合格を目標とする。	2 後	45	1	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング研究Ⅰ	グルーミング道具を正しく使用し、ベーシックの基礎技術を高め、さらに迅速かつ丁寧なグルーミングができる技術の修得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる知識・技術を効率良く発揮する方法を実体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を目標とする。	1 前	90	3	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング研究Ⅱ	ブードルを主とした生体実習により、様々なカットの基礎技術を学び、迅速かつ丁寧なトリミングができる技術の修得を目指すとともにグルーミング技術の資格取得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる飼い主様との接し方やカットのオーダー、カルテ作成などを実体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を育成し、社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	1 後	90	3	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング研究Ⅲ	小型犬や大型犬、様々な犬種の特性に応じたグルーミングの知識と技術を学ぶとともに、時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、スピードトリミング技術をより実践的に行うことで、高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 前	90	3	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング研究Ⅳ	トリマーとして必要となる接客技術やお客様（お預かり犬）の情報管理、カットに必要なオーダーや時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法や、即戦力となりうる応用力を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで実践されているトリミング技術を行うことで、より高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	基礎獣医学Ⅰ	動物の体の組織や器官の仕組みを理解できるようにする。また、動物を取り巻く環境要因や疾病についても学ぶ。身近な動物である犬のからだ、骨格、病気について主に学び、日常の健康管理、食餌管理について学習する。	1 前	30	1	○	○	○	○	○	○
○	基礎獣医学Ⅱ	動物の体の組織や器官の仕組みを理解し、動物の状態確認や応急処置に対応できるようにする。また、動物を取り囲む環境要因や主な感染症と予防についても学習する。	1 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	基礎獣医学Ⅲ	感染症の中でも人に感染するズノーシスについて学習する。感染経路や症状を理解し、予防できるよう学ぶ。また、主となる家庭動物である犬や猫の繁殖生理や解剖生理、遺伝について学ぶ。	2 前	30	1	○	○	○	○	○	○
○	基礎獣医学Ⅳ	幼齢動物・老齢動物の飼育管理を理解するとともに、哺乳類に加え、鳥類・爬虫類の体の仕組みと特性を学び幅広い動物に対応できるようにする。さらに、産業動物、実験動物などについても理解し、課題や関連法規について学習する。	2 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	動物学	用途別に犬種を分類しその特徴や性格について研究する。併せて、猫の品種についても学習し、その性格、飼い方のポイントについて学習する。	1 前	30	1	○	○	○	○	○	○
○	ペットシッティング実習Ⅰ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。そして、飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。	1 前	45	1	○	○	○	○	○	○
○	ペットシッティング実習Ⅱ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	1 後	45	1	○	○	○	○	○	○
○	ペットシッティング実習Ⅲ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理に努め、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	2 前	45	1	○	○	○	○	○	○
○	ペットシッティング実習Ⅳ	動物の飼養施設の衛生管理、温度及び湿度の管理、給餌と給水を適切に行う知識と技術を学校犬へのペットシッティングを通じて身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。また、管理、指導役としてペットシッティング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるよう、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身につける。	2 後	45	1	○	○	○	○	○	○

○	動物関係法令	人と動物とのかかわりに関する基本法「動物の愛護及び管理に関する法律」等について正しい知識を学ぶ。日本においては動物に関する法律として約20種類ほどのものがあり身近な伴侶（愛玩）動物（飼養動物）として接するもの、自然の中に生息している野生動物として接するものとは大別できる。法律に則り、適切に動物を取り扱うことのできる人材を育成する。	1後	60	2	○	○	○	○					
○	家庭動物管理学	ペット販売者は、命あるペットを販売する場合に、飼い主に対し社会的責任を果たすために必要なことを十分に説明する責任がある。ペット業界に携わる者として必要な動物愛護管理法に関する知識を身につける必要がある。また、トラブルを予防するための基礎知識やアフターフォローの方法も学習し、お客様に対しての接客マナーを合わせて学びます。更に犬と猫を中心とした病気、繁殖、フード、しつけなども学習する。	1後	60	2	○	○	○	○					
○	接客マナー	サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、話し方、態度・振舞いなど接客技能を養う。身だしなみ、話し方や経済用語、社会常識、時事用語などの知識を身につけた上で、実際の事例を基に的確な対応ができる能力を習得する。実務技能においては、問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務の5分野について学ぶ。	2前	60	2	○	○	○	○					
○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ	ドッグトレーナーとして様々な犬を分析、対応するだけでなく、ドッグスポーツである「アジリティ」について学習する。また、犬に対する「アジリティ」に必要な訓練だけでなく、ハンドラーの動きや「コマンド」を学び、実践で行う。	2前	90	2	○	○	○	○					
○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲを継続し、オビディエンス訓練やアジリティ訓練の技術をさらに向上させる。	2後	45	1	○	○	○	○					
○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ	人と犬の関係を歴史から理解したうえで、人と犬の関係をつなぐ用具やトレーニングの種類を学び、様々な犬とコミュニケーションが図れるよう実践する。その際、人間社会で犬と生活する上で必要となる「しつけ」とは何かを実践的に学び、「停座」「伏臥」「居座」などの「オビディエンス」の基本について学ぶ。	1前	90	3	○	○	○	○					
○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰを継続し、「しつけ」の基本となる「停座」「伏臥」「居座」「招呼」「脚側行進」などの「オビディエンス」技術を身につけて実践を行う。また、実践する際に使用する用具についても適切な使用方法やタイミングであるか実践の中で学ぶ。	1後	90	3	○	○	○	○					
○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ	ドッグトレーナーとして様々な犬を分析、対応するだけでなく、ドッグスポーツである「アジリティ」について学習する。また、「アジリティ」に必要な訓練だけでなく、ハンドラーの動きや「コマンド」を学び、実践で行う。	2前	90	3	○	○	○	○					
○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲを継続し、オビディエンス訓練やアジリティ訓練の技術をさらに向上させる。	2後	30	1	○	○	○	○					
○	ペットビジネス演習Ⅲ	ペットショップでの顧客対応や売り場づくりを再認識し、ペットが健康な生活を送るために必要な栄養についての知識を詳細に理解する。また、POP広告やグッズ製作について継続的に取り組みペットショップスタッフに必要なスキルの向上を図る。基本的な6大栄養素について学びその知識を基にしたペットフード製作を行う。ペットフード製作においては、犬の健康状態を踏まえた上で、健康な身体作り、健康維持につながる献立を考えて製作する。	2前	90	3	○	○	○	○					
○	ペットビジネス演習Ⅳ	ペットが健康な生活を送るために必要な栄養についての知識を十分に理解した上で、ペットショップで取扱うブランド別にペットフードの特徴を学び、ペットが健康な生活を送るために必要な知識を理解する。さらに近年ペット市場でも拡大しているサプリメントの作用を理解する。また、POP広告やグッズ製作について継続的に取り組みペットショップスタッフに必要なスキルの向上を図る。栄養学を理解し個々の状態に適したペットフード製作を行う。	2後	60	2	○	○	○	○					
○	ドッグセラピーⅢ	本学で行うドッグセラピーは「動物介在活動(AAA)」である。「ドッグセラピーⅠ」「ドッグセラピーⅡ」において、自身のコミュニケーション能力の向上、利用者様への適切な対応、セラピー犬の育成などを行ってきた。本講義では、発展的にアニマルセラピーを実施する際の先輩指導者として必要な事柄を学び、セラピー犬の飼育、セラピー参加者(施設利用者)、セラピー実施者の情報を確認し、安全かつ適正なセラピー活動を実施する技術を身につける。また、「動物介在療法(AAT)」と「動物介在教育(AAE)」についても考察する。	2前	30	1	○	○	○	○					
○	ホリスティックケアⅢ	犬たちは飼養環境の多様化の中で、人間に合わせた暮らし方を強いられ、心身のバランスを崩し、ペット自身のストレス、成人病、高齢化や肥満といった人間社会と同じような社会現象も現れてきている。本講義では「ホリスティックケアⅠ」「ホリスティックケアⅡ」の学習内容を発展させ、東洋医学に由来する経絡とツボの理論を柱としたペットのマッサージを行う。「アロマテラピー」「手作り食」「マッサージ」を基本とし、グループ討論を行うことによって、技術を高め合い、個々人の思考訓練の場をめざす。	2前	60	2	○	○	○	○					
○	ホリスティックケアⅣ	獣医師が発達した今だからこそ、犬の自然治癒力と医療をサポートするホリスティックケアを行い、心と身体を健康に導きたい。本講義では「ホリスティックケア」の集大成として、犬猫の栄養学、手作り食、犬猫のストレス学、アロマテラピー、Tタッチ、犬猫の身体・ツボ＆リンパマッサージ、犬猫に負担の少ないグルーミングなどを総合的に学ぶ。目標は飼主の心に寄り添い、傾聴し、アドバイスをを行う手法の修得。また、アロマテラピー検定1級の出題範囲の消化を行う。	2後	60	2	○	○	○	○					
○	ペットビジネス演習Ⅰ	ペット産業、特にペットショップに従事する人材として、ペットの適正飼養の確保と推進に貢献するとともに顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 飼い主がペットと長く幸せに暮らすために、ペットにとって必要な生活環境を飼い主にとって不都合でない形で提供する必要がある。この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットの選び方からお手入れ方法、しつけや健康管理、獣医療等の知識や技術を学ぶ。 また、ペット用品の製作を立案し、コストを意識した仕入れや製作を行うことで知識を生かした技術を身に付ける。	1前	60	2	○	○	○	○					
○	ペットビジネス演習Ⅱ	ペット産業、特にペットショップ従事者として、ペットフードに関わる知識やペット共生について正しい知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、栄養学を中心にペットが健康な生活を送るために欠かせないペットフードの基本的な知識やペットとの共生について学ぶ。 また、ペット用品の製作やイベント企画・運営などを学生主体で立案・実行し、コストを意識した仕入れや製作、運営まで行うことで知識を生かした技術を身に付ける。	1後	60	2	○	○	○	○					

○	ペットビジネス演習Ⅲ	ペット産業は多岐にわたり人との生活に影響している。ペットに関わる様々な分野について知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットとのコミュニケーションやより良いペットとの関わり方（旅行・撮影・イベントなど）について学ぶ。また、ペット関連法規をはじめ、ペットに関わる保険について学ぶ。 なお、ペット用品の製作やイベント企画・運営などは継続して取り組み、ペットショップスタッフに必要な知識および技術の向上を図る。	2 前	60	2	○	○	○				
○	ペットビジネス演習Ⅳ	ペット共生には犬・猫の高齢化に伴う様々な知識や技術が必要とされる。ペット業界全体を理解し、接客場面において相談やアドバイスをを行うとともに、ペットの適正な発育と健康維持・増進に寄与できる人材を育成する。 この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、犬・猫の老化ポイント、食餌・排泄の介助、介護などを学習する。 また、ペットが健康で安全な生活を送る上で必要なペットフードに関わる法律や製造・保管などについても学ぶ。 なお、ペット用品の製作やイベント企画・運営などは継続して取り組み、より高度なペットグッズ製作技術の習得と広告および映像作品の製作を行う。	2 後	15	1	○	○	○				
○	ホリスティックケアⅠ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ペットの癒しとして自然治癒力を高めるアロマテラピーやマッサージ、ホリスティック療法を通じて身体全体のケアを学ぶ。 また、動物介在療法（AAT）や動物介在教育（AAE）、動物介在活動（AAA）について学び、動物介在活動についての知識と技術を身に付け、実践の場として特別介護施設等で動物介在活動を実施し、その効果を実感するとともに犬の扱い方や参加者とのコミュニケーションスキルを身に付ける。	1 前	30	1	○	○	○	○			
○	ホリスティックケアⅡ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、アロマテラピー、手作り食、マッサージを総合的に学習する。アロマテラピー検定2級の出題範囲を学ぶとともに、手作り食では心と身体のバランスを保つことを第一に考え、合成添加物を使用することなく、ペットが安心して食べることができるように調理、食餌を実践する。 また、動物介在活動を継続して行い、様々な訪問先の参加者に適した接し方など活動における留意点について学習し、実践できる能力を身に付ける。	1 後	30	1	○	○	○	○			
○	ホリスティックケアⅢ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。ペットのストレス、成人病、高齢化や肥満といった人間社会と同じような社会現象も現れてきていることを理解し、さらなる知識、技術の向上を目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、アロマテラピーの上級資格取得、東洋医学に由来する経絡とツボの理論を柱としたペットマッサージの習得、グループ討論を行うことによってコミュニケーションスキルを高め合い、個々の思考能力を高める。 また、主体的に動物介在活動を行うためにプログラムの立案を行い、参加者に適した接し方や活動における留意点についても思案し、安全かつ適正なセラピー活動を実践する。	2 前	30	1	○	○	○	○			
○	ホリスティックケアⅣ	飼い主の心に寄り添い、傾聴し、アドバイスをを行う手法の修得と動物介在活動における社会貢献活動について取り組める人材を目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ホリスティックケアの集大成として、アロマテラピー、マッサージ技法、犬猫の身体・ツボおよびリンパマッサージ、犬猫の栄養学と手作り食、犬猫のストレス学、犬猫に負担の少ないグルーミングなどを総合的に学ぶ。 また、社会貢献活動としての動物介在活動を実践する。	2 後	15	1	○	○	○	○			
○	動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	2 後	30	1	○	○	○	○			
○	動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2 前	30	1	○	○	○	○			
○	動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療がどのように用いられるかを理解する。	2 前	60	2	○	○	○	○			
○	動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	2 前	90	3	○	○	○	○			
○	公衆衛生学	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	2 前	60	2	○	○	○	○			
○	動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	2 前	30	1	○	○	○	○			
○	動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2 後	60	2	○	○	○	○			
○	動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個性性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	2 前	30	1	○	○	○	○			
○	動物臨床栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	2 後	60	2	○	○	○	○			
○	動物内科看護学実習	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 前	90	2	○	○	○	○			
○	動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査および生体検査の手技に応用を付けて正確性、迅速性を身に付ける。また、検体の保存法、取扱いと検査後の処理を正しく理解する。	2 後	45	1	○	○	○	○			
○	動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 後	90	2	○	○	○	○			

○	動物看護総合実習Ⅱ	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。	2 前	90	2			○		○		○	○
合計			71 科目	3,885単位時間(120単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間以上になること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：コース選択により履修科目が決定する。		1学期の授業期間	20週

- (留意事項)
1. 講義・演習は15時数～30時数で1単位とし、実習は30時数～45時数で1単位とする。
 2. 選択必修についてはこの中からコース毎に下記の単位数以上を履修すること。
 - グルーミングコース 46単位
 - ドッグトレーナーコース 46単位
 - ペットショップ&セラピーコース 47単位
 3. 次に定める授業科目の履修等は、本校各課程の修了に必要な総授業時間数の2分の1を超えない範囲で、当該課程における授業科目の履修とみなす。

科目区分	履修する専門学校	履修科目	本校において履修したとみなす授業時数(単位数)
一般科目	東京法律公務員専門学校杉並校 法律専門課程 行政学科(1年制)	社会科学概論	40時間(2単位)
		社会科学演習	40時間(2単位)
		人文科学概論	40時間(2単位)
		人文科学演習	40時間(2単位)
		自然科学概論	40時間(2単位)
		自然科学演習	40時間(2単位)
		時事研究	40時間(2単位)
		論作文	40時間(2単位)
専門科目	東京法律公務員専門学校杉並校 法律専門課程 行政学科(1年制)	判断推理	40時間(2単位)
		判断推理演習	100時間(5単位)
		数的推理	40時間(2単位)
		数的推理演習	100時間(5単位)
		資料分析	40時間(2単位)
		文章研究	40時間(2単位)
		適性演習	20時間(1単位)
		トレーニング演習	20時間(1単位)
科目的横断学習	20時間(1単位)		